

大分教育事務所訪問②-73 (計 146)

大分市立佐賀関小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「心豊かで 確かな学力と たくましい体を持つ子どもの育成」の達成に向けて、佐賀関中と共に小中一貫教育を計画的に取り組まれています。

そのため、月に1回は両校の校長、教頭、担当教諭が集まり、それぞれの進捗を確認しながら9年間を見通した実践へと繋げています。

特に、体育大会は幼稚園も含めて行うことで、中学生のリーダーシップを発揮する姿から、小学生も自主的に行動するようになったり、小中合同の応援団の姿を見た幼稚園児が自分たちもやってみたくて自主的に取り組むようになったりと、子ども達はそれぞれ他学年の子どもの姿をみることでから、活動への意欲が生まれ実践へとつながったそうです。

今後は、本校が育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を、協議の時に話題になった「言語能力(書く力、読解力)」について、中学校と協議をしながら定めてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることができます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながると期待されます。

参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 pp47—51 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 ア 言語能力

授業から学ぶ

全学級の指導案と板書計画を作成して頂きありがとうございました。本時のねらいも「追求対象、着眼点、到達点」が示されており、日

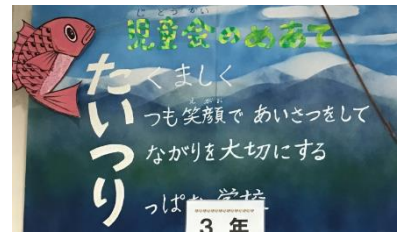


低い視線

子ども達が主役だから、
子どもの様子がよく見えるから、
教師の視線は次第に低くなる。

常から意識されているのでしょうか。どの学級からも教師の声よりも子ども達の声が響き、学び合う姿が印象的でした。特に3年生国語は温かな教室の雰囲気に加え辞書を準備させていたので、安心して自分の考えを表すことができました。5年生道徳は構造的な板書構成なので、自分の思いを伝えやすかったと思います。

今後は指導案を作成する際、「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「こどもを主語」にして表記してみてはいかがでしょうか。教師が考えた「振り返り」と子どもが実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善が推進されると思いました。



NO.645 2021年12月 大分市立佐賀関小学校

見守る人

応援してくれる友達がいるから、
近くで見守ってくれる先生がいるから、
勇気をもって黒板に書くことができる。



NO.643 2021年12月 大分市立佐賀関小学校

協力は強力

みんなで知恵をだしあうから、
それぞれ役割を分担し認め合うから、
上手いく。
そして、みんなが成長する。